



Weekly Report Niigata



新潟 RC 4月第2例会 (2011.4.12) No.2892

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 樋熊 紀雄会長挨拶

「医聖ウイリアム・オスラー」

新潟市民病院には、記念するものとして、以前にお話ししました「ヒポクラテスの木」と、「ウイリアム・オスラーの胸像」があります。

私は新潟市民病院に 25 年間勤務し、医学教育に関わり医聖ウイリアム・オスラーの教えを学生、研修医に伝えてきました。本日はこの胸像「医聖ウイリアム・オスラー」についてお話申し上げます。

胸像の建立は、退職されました荻間名誉院長の金員と職員の寄付により、新潟大学教育学部教授渡辺利胤先生により 1985 年に制作されたものです。

医聖オスラーは、アメリカのペンシルベニア大学、ジョンズ・ホプキンス大学とイギリスのオックスフォード大学で内科教授を歴任されました。

最初は、牧師をめざしていましたが、17 歳でウェストンという学校に入学、そこで牧師であり、生物学者のジョンソン先生に出会います。その結果、顕微鏡下の生物学に興味をそそられ、次いでトリニティ大学で、ボベエル教授の書生となり、両先生の勧めでモンリオールのマギル大学へ転校し、ハワード教授の教育、研究の姿を見て、将来の方向を見出しだすこととなります。ヨーロッパで学んだ生理学から病理学に進み 10 年間に 1000 例近くの病理解剖を行いました。臨床と病理の両立が高く評価され、ペンシルベニア大学から内科教授の招請となりました。

ペンシルベニア大学を去る時の告別講演が「Aequanimitas」という本の冒頭にある講演で「平静の心」という題です。医師になるために何が一番必要であるか、それはいかなる時にも、いかなる状況の時にも、悲しい時にも、辛い時にも、人から見捨てられた時にも、或いはまた命がなくなろうとしているような時にも、人間としてもっとも大切なものは、Aequanimitas=平静の心である。そして医学生の時から平静の心をもつように訓練されなくてはならない。不動の態度を身につけなくてはならない。その平静の心というのは、いかなることに耐え忍

ぶことのできる人間にのみ与えられる。この苦難に耐えることの重要性を医学生に話して、お別れの言葉としました。

オックスフォード大学に赴任する前、「医師たるものは、看護師たるものは、専門のものだけでなく、専門以外のものに目を向け、高い教養がなければ患者の問題を解決することができない」と指導しております。

Osler said medicine “ should begin with the patient, continue with the patient,

and end with the patient. (医療は患者と共に始まり、患者と共にあり、患者と共に終わる)。医師が患者を診る時には、患者を部分的に、臓器の病気として診ないで、全人的に診ないと、患者さんや、或いは地域住民の問題を解決することはできない。これは「患者とともにある全人的医療」を表しています。

医学教育に当たっては、

Fifteen minutes at the bedside is better than three hours at the desk.

It is by your own eyes and your ears and your own mind and (I may add) your own

heart that you must observe and learn.

自分の目で見、耳で聞き、心で感じることをベッドサイドで学びなさい。本より患者で学べ、患者なしには勉強できない、だから本はいい加減にしろ、まず患者さんのところへ行きなさい。諸君は看護師がそうするように、ぴったりと患者の傍に居て観察をしなさい。

「テキストとなる患者なしでの教育はあり得ない。良い教育は患者から教えられるものである。」「患者を診ずに本だけで勉強するのは、まったく航海にでないにも等しいといえるが、本を読まないで疾患の現象を学ぶのは、海図を持たずに航海するに等しい」とも言い、本はもちろん大切であるが、学ぶ教材は患者であることを強く言っています。

医学教育、看護教育には、ベッドサイドが最も大切であることを最初に持ち込んだ偉大な教育者であります。今、この医学教育の基本に沿って新しい医師の教育を行い、国民の負託に応えられるよう取り組んでいかななくてはなりません。

(3) 幹事報告 (石川 治彦幹事)

- ・例会終了後、地域社会奉仕委員会を開催します。
- ・大震災の義援金口座を開設しました。第四銀行本支店の窓口からの送金は手数料がかかりません。

第四銀行本店普通預金口座 2587344
新潟ロータリークラブ 東日本大震災寄付
会計 石川 治彦

- ・ポールハリスフェロー・マルチプルフェローの認証対象にはなりません。ロータリー財団を通して大震災の寄付が出来ます。申し込み用紙をご用意致しました。
- ・本日は大震災義援金寄付として 56648円の御協力を頂きました。
- ・中条 RC50周年記念式典は中止になりました。

(4) 会員スピーチ

「東日本大震災

電力設備復旧と計画停電回避に向けて」

東北電力株新潟支店支店長 矢萩 保雄君

決議23-34の補足解説 (Silent Minority)

横山 芳郎

先日の榎熊会長の上記の解説は見事でした。なかなかこんなに解説できる人はあまりいません。しかしはじめてこんな決議があったなどということをきいた方もあろうと思えますので、もうすこし砕いて補足させていただきます。

まず、R(ロータリー)の中で一番偉いのは誰かという話からいたします。国際ロータリー(RI)会長も偉いし、地区ガバナーも偉いしとお思いでしょうが、それも当然ありますが、私はクラブ会長だと思います。これまでの2、3のRI会長が公式文書でこのように言及していますから、私の独断ではありません。Rがこんなにグローバルになってきますと、全部のロータリアンを納得させるような、Rの行動目的などを示せるわけがありません。綱領にしたがって、自分流に納得した目的をつくりあげなければなりません。

私は「Rとは世界のすべての人たちに、人種、宗教、信念の如何にかかわらず、平和で、健康で暮らしやすい生活が得られもように努力し、実現にむけて、自分の職業を通じて奉仕してゆく共同体である」と考えています。利益本位の商売から、奉仕の概念を立ち上げるには、自分の心の厳しい修養と、人間家族との共生の精神を確立しないと、職業奉仕は成立しません。アーサー・シェルドンという人の建議によるものですが、さらに彼は社会奉仕が加わらなると、Rの世界的な増強拡大はえられないと強調し、シカゴクラブも討論の結果、それに従うことを可決しました。Rは社会奉仕団体のように思うかもしれませんが、この社会奉仕の決議は職業奉仕より後から加わった概念で、本当はRとはロータリアンの精神性を高めるために修養してゆく人間道場であると考えるのが第一義であります。

R財団をRの営業部といったRI理事がいましたが、財団をそんな風に理解している人もいたので驚きました。財団にお金が沢山集まってくると、人はつい奉仕営業でもして

いるように思うのでしょうか。世界一の奉仕団体にしようという気持ちが見え隠れしています。私はRが好きで入っているのですから、Rが発展してゆくのは好ましく思っていますが、無理に増強拡大と叫ばなくても、すなおにいいものはいいと考えています。

私どもがRに入って、日ごろのクラブ例会に出席し、クラブ奉仕の活動によって精神修養し、立派な方々と交流してゆく過程で自然に奉仕の精神が涵養されてくるわけです。これをクラブ奉仕と申しますが、これを企画、実行し、成果をあげるのには、クラブ会長さんの専決事項であるわけですから、結果として、Rで一番偉いのは会長さんということになるわけです。決議23-34ではRの綱領に反するものでなければ、クラブ細則に従えば、R会員はかなり自由に行動できることになっており、これに従って「自分のRの概念」をしっかりと持つべきでしょう。Rについていろんな意見があるのはいいことです。しかしMy Rotaryとは何かということは大切です。

Silent Minorityという言葉があります。うまい日本語訳がないのですが、私は「ことあげない少数派」ということになっています。越後人の性格です。「人間を美化せず、現実があるがままに直視する人、全体主義に疑問を抱き、自らの果たすべき役割を正確に把握できる人」と記載されています。これに対する言葉を創作すれば、Crying Majority「こわだかに叫ぶ多数党」ということになりましょうか。Rも増強拡大を叫ぶ人よりも、Silent Minorityの人のほうが、本質についていることもありましょう。